

感染症定期報告感染症別文献一覧表(2014/4/1~2014/9/30)

| ID | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|---------|---|---|
| 1 | E型肝炎 | Vet J. 197(2013)509-511 | 中国におけるブタのE型肝炎ウイルス(HEV)に関する報告。2006年から2011年までに中国南東部及び南西部のブタ5952頭から採取されたサンプルを解析した結果、HEVの遺伝子型3は4頭(0.07%)から、遺伝子型4は287頭(4.8%)から検出された。 |
| 2 | E型肝炎 | Trop Anim Health Prod. 2014 Feb; 46(2)399-404 | ブラジルにおけるブタのE型肝炎ウイルス(HEV)の報告。ブラジルの家族規模の農場におけるブタの小腸サンプルからHEVが検出された。 |
| 3 | E型肝炎 | 国立感染症研究所 病原微生物検出情報月報 Vol.35 NO.1(No.407) 2014年1月発行 | 日本におけるE型肝炎の報告。2005~2013年に報告されたE型肝炎のうち、ブタからヒトへの感染(肉、ブタレバーを含む)によるE型肝炎が88例報告された。 |
| 4 | E型肝炎 | 国立感染症研究所 病原微生物検出情報月報 Vol.35 NO.1(No.407) 2014年1月発行 | 日本におけるE型肝炎の報告。2004年にブタからヒトへの経口感染(レバー、ホルモン)によるE型肝炎が8例報告され、うち1例は劇症肝炎で死亡した。 |
| 5 | E型肝炎 | 国立感染症研究所 感染症週報2013年第47週 | 日本におけるE型肝炎の報告。2013年11月、ブタからヒトへの経口感染(肉)によるE型肝炎が1例報告された。 |
| 6 | E型肝炎 | 国立感染症研究所 感染症週報2013年第52週 | 日本におけるE型肝炎の報告。2013年12月、ブタからヒトへの経口感染(肉、レバー)によるE型肝炎が1例報告された。 |
| 7 | E型肝炎 | 国立感染症研究所 感染症週報2014年第1週・ 第2週 | 日本におけるE型肝炎の報告。2014年1月、ブタからヒトへの経口感染(レバー)によるE型肝炎が1例報告された。 |

| ID | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|---------|-------------------------------------|---|
| 8 | E型肝炎 | 国立感染症研究所 感染症週報2014年第3週 | 日本におけるE型肝炎の報告。2013～2014年、ブタからヒトへの経口感染(肉)によるE型肝炎が1例報告された。 |
| 9 | E型肝炎 | 国立感染症研究所 感染症週報2014年第4週 | 日本におけるE型肝炎の報告。2014年1月、ブタからヒトへの経口感染(肉)によるE型肝炎が1例報告された。また、2013～2014年、ブタからヒトへの経口感染(肉)によるE型肝炎が1例報告された。 |
| 10 | E型肝炎 | 国立感染症研究所 感染症週報2014年第7週 | 日本におけるE型肝炎の報告。2014年2月、ブタからヒトへの経口感染(肉)によるE型肝炎が1例報告された。 |
| 11 | E型肝炎 | 国立感染症研究所 感染症週報2014年第13週 | 日本におけるE型肝炎の報告。2014年3月、ブタからヒトへの経口感染(肉、ホルモン、レバー)によるE型肝炎が1例報告された。また、2013～2014年、ブタからヒトへの経口感染(ホルモンの可能性)によるE型肝炎が1例報告された。 |
| 12 | E型肝炎 | 国立感染症研究所 感染症週報2014年第14週 | 日本におけるE型肝炎の報告。2013～2014年、ブタからヒトへの経口感染(レバー)によるE型肝炎が1例報告された。 |
| 13 | E型肝炎 | 国立感染症研究所 感染症週報2014年第15週 | 日本におけるE型肝炎の報告。2014年4月、ブタからヒトへの感染と疑われるE型肝炎が1例報告された。 |
| 14 | E型肝炎 | 国立感染症研究所 感染症週報2014年第17週・第18週 | 日本におけるE型肝炎の報告。2013～2014年、ブタからヒトへの経口感染(肉、レバー)によるE型肝炎が3例報告された。 |
| 15 | インフルエンザ | Clin Infect Dis. 57(2013)s16-s22 | ブタからヒトへのインフルエンザA(H3N2)異型ウイルス(H3N2v)の伝染性に関するモデル研究。2011年に開催された農業フェアにおいてブタとヒトの両方に呼吸器疾患が認められたとの報告があり、3例のH3N2v感染が確認された。著者らはヒト-ブタ間におけるH3N2v伝染モデルを開発し、この農業フェアの全参加者におけるブタからのH3N2v伝染数を想定した。農業フェアにてブタと接触した14,910人に適用すると、20歳未満で80例、20歳以上で58例のH3N2v感染があったと見積もられた。 |

| ID | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|---------|---|---|
| 16 | インフルエンザ | Zoonoses and Public Health. 60(2013)327-335 | 米国におけるインフルエンザA(H1N1)型(以下、H1N1)に関する報告。米国農務省の野生動物調査プログラムを通じて、H1N1に感染した野生のブタが初めて確認された。 |
| 17 | インフルエンザ | Viro J. vol.10 Article No.204/ Jun 2013 | 新型のブタ起源のインフルエンザA(H1N1)ウイルス(S-O2009IV)の空気伝播に関する研究報告。感染ブタの発生した養豚場から採取された空気サンプルについてRT-PCR法を用いて検討した結果、S-O2009IVの陽性率は26.1%であり、ウイルス量は1立方メートルあたり3.14-5.72logコピーと推定された。また、ブタ及びテンジクネズミを用いた感染モデルの検討により、分離株にはエアロゾルの形成能力があることが確認された。 |
| 18 | インフルエンザ | J Gen Virol. 94(2013)1236-1241 | インフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)の系統発生解析に関する研究報告。2011年、米国において320例の感染者が確認されたH3N2vに関して、計200の分離株について系統発生解析を実施した結果、すべての分離株は原始的な北米H3集団4(c4)から進化したことが示唆された。 |
| 19 | インフルエンザ | J Virol. 87(2013)9895-9903 | インフルエンザA(H3N2)型ウイルスに対する不活化及び弱毒化ワクチンの有効性評価の報告。ブタを用いた実験では、現在流通している不活化ワクチンでは間接的な接触に対して部分的な予防効果しか認められなかった。一方、実験的に作成された弱毒化ワクチンでは間接的な接触に対して完全な予防効果が認められた。ある種のワクチンが適切に使用された場合、H3N2型ウイルスと抗原的に類似のウイルスの感染を抑制できる可能性が示された。 |
| 20 | インフルエンザ | Chin Sci Bull. 58(2013)3183-3187 | 中国における鳥インフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染に関する総説。2013年3月以降、中国では多数のH3N2v感染者が確認されてきた。本総説では感染者の性別、年齢、職業等について分析を行い、高齢者(特に男性)の感染者数が予想を超えて多いことを指摘している。今回のアウトブレイクはGradeIII(Severe)と指定されているが、今後、GradeIV(Very severe)以上となる可能性がある。 |
| 21 | インフルエンザ | J Virol. 446(2013)49-55 | 中国におけるインフルエンザA(H1N1)型(以下、H1N1)の感染に関する研究報告。本報告の筆者らは、H1N1のヒトへの感染を認めた際に、感染者の周辺でフィールド調査を実施した。その結果、H1N1感染者から分離されたウイルス株は、現地のブタで蔓延したウイルスと同型であった。また、採取されたブタの血清の42.8%(21検体中9検体)は、H1N1陽性であった。これは、新種のインフルエンザウイルスのヒトへの感染を監視する上で、ブタにおける調査の重要性を示している。 |
| 22 | インフルエンザ | http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_16December13.pdf | 米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)の報告。2013年10月7日から12月16日までの間に、アイオワ州から新たにH3N2v感染1例が報告された。2013年において米国内では19例のH3N2v感染が報告されている。全症例が発症前にブタとの接触があったことが確認されている。継続的なヒト-ヒト感染は確認されていない。 |
| 23 | インフルエンザ | ProMED-mail 20140106.2154265 | カナダにおけるインフルエンザA(H1N1)型(以下、H1N1)の報告。Paul Van Buynder博士とFraser Health(フレイザー地域保健機関)はH1N1のアウトブレイクにより、BRITISH COLUMBIAにおいて、少なくとも40例の患者が病院へ行き、約半数が集中治療室での治療を受けたと発表した。 |

| ID | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|---------|---------------------------------|---|
| 24 | インフルエンザ | ProMED-mail 20140106.2155040 | カナダにおけるインフルエンザA(H1N1)型(以下、H1N1)の報告。米国において2013～2014年にH1N1の感染が流行しており、ミシガン州での4例、カリフォルニア州での5例を含む複数人での死亡例が確認されている。 |
| 25 | インフルエンザ | ProMED-mail 20140527.2501115 | サウジアラビアにおけるインフルエンザA(H1N1)型(以下、H1N1)の報告。サウジアラビアの東部州Ash Sharqiyahにおいて看護学生がH1N1に感染し、その後死亡した。 |
| 26 | インフルエンザ | ProMED-mail 20140112.2168460 | 米国および日本におけるインフルエンザA(H1N1)型(以下、H1N1)の報告。 2014年1月10日、カリフォルニア州公衆衛生局は65才未満の7例がH1N1で死亡したことを確認した。 2013年12月、テキサス州衛生局は、8例でインフルエンザ症状を認め、うち4例が死亡し生存している2例でH1N1感染を確認した。 2013年11～12月、札幌において6つのH1N1pdm09ウイルスが検出され、6つのウイルスの赤血球凝集素とノイラミニダーゼ遺伝子は密接に関連があり、1つの耐性ウイルス株の広がりが示唆された。 |
| 27 | インフルエンザ | CDC MMWR | 米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)の報告。2013～2014年のインフルエンザシーズンに、アイオワ州でH3N2v感染が報告された。患者は子供であり、ブタに直接接触していた。患者は回復し、家族や親しい間柄での感染はみられなかった。 |
| 28 | インフルエンザ | LANCET. 383(2014)714-721 | 中国における新型の再集合体鳥インフルエンザA(H10N8)型の報告。中国において発熱後多臓器不全で死亡した73歳女性患者の気管吸引物より新型再集合体H10N8ウイルスが検出された。配列解析により、ウイルスの前遺伝子が鳥由来であり、鳥インフルエンザA(H9N2)ウイルス固有の遺伝子を6ヶもつことが判明した。新型再集合体H10N8ウイルスは過去に報告されたH10N8ウイルスとは異なるものであり、このウイルスはヒトへ感染し患者の死亡と関連している可能性がある。 |
| 29 | インフルエンザ | Euro Surveill. 2014 Jun 26 | 中国広州において、インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)の家族内におけるヒト-ヒト感染の可能性について調査した。発端患者は鮮魚市場で働く20代後半の男性で、2例目の患者は発端患者の5歳の子供で家禽や鳥との接触はなかった。2例目の患者から分離されたH7N9ウイルス株の赤血球凝集素(HA)遺伝子配列は100%一致し、2例目の患者は父親からのウイルスの伝播により感染したことが強く示唆された。 |

| ID | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|----------|--|--|
| 30 | 鳥インフルエンザ | ProMED-mail 20140403.2378239 | 中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)に関する報告。2013年4月～2014年3月、中国Ministry of Agricultureによりトリ140万羽にH7N9に関する検査が行われ、440羽が血清学的陽性であり、116羽が病原体陽性であった。 |
| 31 | 鳥インフルエンザ | ProMED-mail 20140303.2311810 | 中国における中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)に関する報告。 2014年3月3日付けで、WHOは情報更新を行い、H7N9感染の新規症例8例(浙江省3例、広東省1例、江蘇省1例、湖南省2例、広西省1例)を報告した。 2014年3月2日、広東省においてH7N9感染1例が確認され、臓器不全により死亡した。 2014年3月1日、香港の Centre for Health Protection はH7N9感染1例の報告を受けた。 |
| 32 | 鳥インフルエンザ | ProMED-mail 20140201.2248029 | 中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)に関する報告。2014年1月30日、CIDRAPによると、中国において6例のH7N9感染症例、2例の死亡例が報告された。 |
| 33 | 日本脳炎B型 | ProMED-mail 20140722.2628448 | インドにおける日本脳炎の報告。インドの北ベンガルにおいて、脳炎の症例数が急速に増加している。2014年7月15日付けのProMEDでは、北ベンガル医科大学病院での脳炎による死亡者は30名と報告された。21日には重症症例数は倍の60名となり、22日までの脳炎による死亡者は102名と報告された。102名のうち約24%は日本脳炎のウイルス感染であった。 |
| 34 | ハンタウイルス | Vector Borne Zoonotic Dis. 14(2014) | マダガスカルの齧歯類から検出された新規ハンタウイルスの報告。クマネズミ(<i>Rattus rattus</i>)及び房状尾ラット(<i>Eliurus majori</i>)の臓器より採取されたハンタウイルスを解析した結果、当該ウイルスはタイウイルス(THAIV)に属する新規ウイルスと判明した。筆者らは、Anjzorobe strainと命名することを提案した。 |
| 35 | 狂犬病 | Weekly Disease Infor mation Apr 3. 2014 | ウルグアイにおける狂犬病の報告。2014年3月5日にウルグアイの農場において狂犬病のアウトブレイクが発生した。ブタにおける感染疑い例5例で、感染源は野生種との接触である。 |
| 36 | ニパウイルス感染 | Emerg Infect Dis. June 2014 Lertter | 中国におけるラットの新規ヘニパ様ウイルスの報告。2016年6月、中国雲南省Mojiang Hani自治県において、炭鉱で働いていた3例が原因不明の重症肺炎により死亡した。その半年後、著者らはこの洞窟での自然宿主内の新規人獣共通病原体の存在調査のため、坑道でコウモリ(<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>)20匹、ラット(<i>R.flavipectus</i>)9匹、ジャコウネズミ(<i>Crocidura dracula</i>)5匹から肛門スワブサンプルを採取した。 <i>R.flavipectus</i> ラット由来サンプルから、既知のヘニパウイルスの遺伝子に類似したMojiang paramyxovirus(MojV)が検出された。 |

| ID | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|---------------|--|---|
| 37 | 口蹄疫 | Oie http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?page_referrer=MapFullEventReport&reportid=14132 | ロシアにおけるブタの口蹄疫の報告。2013年9月14日に中国国境に近いロシアのザバイカリエ地方において、ブタの口蹄疫(血清型A)のアウトブレイクが発生した。ブタにおける口蹄疫感染疑い例は209例で、感染源は不明又は結論に達していない。 |
| 38 | 口蹄疫 | Oie http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?page_referrer=MapFullEventReport&reportid=14807 | 北朝鮮におけるブタの口蹄疫の報告。2014年1月8日に北朝鮮の平壤において、ブタの口蹄疫(血清型O)のアウトブレイクが発生した。ブタにおける口蹄疫感染疑い例は25,869例、感染例1,834例、死亡277例、処分3,668例で、感染源は不明又は結論に達していない。 |
| 39 | ロタウイルス感染 | The Pig Site (Feb. 21, 2014) | カナダにおけるブタのロタウイルス感染の報告。ケベック州の10の農場のブタからロタウイルスA群が検出された。 |
| 40 | ウイルス感染 | ProMED-mail 20131219.2126531 | MERSコロナウイルスの複製能力に関する報告。MERSコロナウイルスはヤギ、ラクダ由来の細胞で複製をした。このことからこれらの動物はMERSコロナウイルスの中間宿主となる可能性が示唆された。 |
| 41 | ウイルス感染 | Virology Journal. 2013, 10:341 | 中国におけるブタのE型肝炎ウイルス(HEV)とブタ繁殖・呼吸障害症候群ウイルス(PRRSV)の同時感染例に関する報告。中国の養豚場で死亡した子豚300例について死亡原因を分析したところ、HEVとPRRSVの同時感染例が1例あり、この症例では深刻な病理的变化が観察された。 |
| 42 | ウイルス感染 | Int J Food Microbiol. [Epub ahead of print] | カナダにおけるトルクテノサスウイルス(TTV)の食肉汚染に関する報告。カナダ国内の5つの地域から収集された豚レバー283点及びポークチョップ599点の検体を検査した結果、97.9%の検体がTTV陽性であった。 |
| 43 | ウイルス感染 | Vet Microbiol. [Epub ahead of print] | ベトナムの養豚場におけるロタウイルスA群(ARoV)の陽性率に関する報告。ベトナム南部の養豚場を調査した結果、730頭のうち239頭(32.7%)がARoV陽性であった。また、調査を行った104戸の養豚場のうち77戸(74%)において少なくとも1頭のARoV陽性ブタが見つかった。 |
| 44 | オルソボックスウイルス感染 | EIS Conference 2014 (April 28-May 1, 2014) | グルジアにおける新種のオルソボックスウイルスの報告。米国CDCは2013年7月、牧牛業者2名が、病気のウシとの接触後に新種のオルソボックスウイルス科のウイルスに感染したことを確認した。CDCがこれらの牧牛業者とウシと接触のあった55例に聞き取り調査を行ったところ、天然痘ワクチンの定期接種が中止された1980年以降に生まれた9例のうち5例にオルソボックスウイルスの抗体が確認された。さらに、グルジア国内の他の地域でも、2010年に炭疽感染の疑いとされていた別の1例における感染が確認された。 |

| ID | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------------|---------------------------------------|--|
| 45 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | OIE Jan. 23, 2014 | ドイツにおける異型クロイツフェルトヤコブ病に関する報告。ドイツのBSE監視システムによって、1頭のBSE例が特定された。このウシは10歳5カ月で殺処理されており、その時点で臨床症状は認められなかったが、検査の結果、L型BSE陽性であることが判明した。このウシは食肉流通される前に発見されたため、ヒトの健康に影響はない。疫学調査が実施された結果、このウシの子孫7頭が特定され、うち5頭は既に殺処分されていたが、残り2頭も屠殺及び処分された。 |
| 46 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMED-mail 20140118.2182518 | ドイツにおける異型クロイツフェルトヤコブ病に関する報告。2014年1月17日、国際獣疫事務局は、稀なタイプのBSEのウシがドイツで発見されたことを公表した。ドイツ北東部のブランデンブルク州の農場において、10歳のウシがL型BSEに陽性であることが判明した。このウシは食肉流通される前に発見されたため、ヒトの健康に影響はない。このウシの子孫7頭が特定され、うち5頭は既に殺処分されていたが、残り2頭も屠殺及び処分された。 |
| 47 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | OIE Immediate notification | ドイツにおける異型クロイツフェルトヤコブ病に関する報告。ドイツのBSE監視システムによって、1頭のBSE例が特定された。このウシは11歳4カ月で殺処理されており、臨床症状は認められなかったが、検査の結果、H型BSE陽性であることが判明した。このウシは食肉流通される前に発見されたため、ヒトの健康に影響はない。疫学調査が実施された結果、このウシの子孫8頭が特定され、うち3頭は既に殺処分され、1頭は死亡、4頭は他の加盟国と取引された。 |
| 48 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMED-mail 20140312.2329623 | ギリシャにおける異型クロイツフェルトヤコブ病に関する報告。中央ギリシャにおいて、2頭のBSE例が特定された。これらウシはオランダから輸入され約6歳と推定され、11歳4カ月で殺処理されており、臨床症状は認められなかったが、検査の結果、H型BSE陽性であることが判明した。このウシは食肉流通される前に発見されたため、ヒトの健康に影響はない。疫学調査が実施された結果、このウシの子孫8頭が特定され、うち3頭は既に殺処分され、1頭は死亡、4頭は他の加盟国と取引された。 |
| 49 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Prion. 7(2013)42 | H型牛海綿状脳症(以下、H型BSE)の連続継代による新型BSEプリオンの出現の報告。ウシ化されたPrPを過剰発現する遺伝子組替えマウスにおいて、カナダH型BSE分離株の連続継代を実施した。その結果、第一から第三継代まで生物学的及び生化学的に明確な相違は認められなかった。しかし、第四継代において生存期間の異なる2種類のBSE型が認められた。本研究は、種内伝播のあいだに高毒性を有する新型のBSEプリオンが出現する可能性を示唆している。 |
| 50 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Vet Microbiol. 166(2013)102-108 | 牛海綿状脳症(以下、BSE)のウシにおけるプリオンタンパク凝集の分析。表面蛍光分布分析法を用いて、BSE感染ウシの脳及び血漿におけるプリオンタンパクの凝集について解析した。その結果、6頭中5頭の感染ウシの脳において凝集が確認されたが、いずれのウシにおいても血漿からは凝集は確認されなかった。 |
| 51 | レンサ球菌感染 | J Med Microbiol. 62(2013)1073-1080 | ブタレンサ球菌の細胞表面タンパクに関する研究報告。ブタレンサ球菌P1/7の遺伝子SSU0186は、H因子結合活性を有していると想定された。筆者らは、大腸菌由来の組換えSSU0186タンパク質を精製し、解析した結果、この細胞表面タンパクはH因子との結合能を有していることが示された。本細胞表面タンパクは、ブタレンサ球菌感染時の発病機序に関わる可能性がある。 |
| 52 | レンサ球菌感染 | 化学療法の領域. 29(2013)956-934 | ブタレンサ球菌に関する総説。ブタレンサ球菌のヒト感染例の主な症状は、発熱、頭痛をはじめ、髄膜炎や敗血症等の重篤な侵襲性感染症を含む。また、本感染症に特徴的な症状として不可逆的な難聴が知られている。感染経路として、これまで、汚染されたブタまたはブタ肉との濃厚接触により皮膚創傷から感染することが知られていた。しかし近年では、ブタの生肉や生血を伝統料理として食べている地域で高い発症率が認められていることから、食中毒としての一面を持つことが明らかとなっている。 |

| ID | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|---|--|
| 53 | レンサ球菌感染 | ProMED-mail 20140210.2269028 | ベトナムにおけるレンサ球菌感染の報告。ダイビン省の男性がtiet canh(ブタの血のプディング)を喫食して、感染症により死亡した。2014年1月28日、男性は健康なブタを解体し、その血でtiet canhを作り喫食した。翌日、高熱、震え、消化器の異常があったが受診しなかった。さらにその翌日、血圧低下及びショック状態により医療機関へ搬送されたが、その日の夜に死亡した。患者からはブタのレンサ球菌が検出された。加熱調理していない肉や内臓、tiet canhは食べるべきではない。 |
| 54 | 結核 | Prev Vet Med. 109(2013)246-257 | ウシ結核(bTB)に対する群衆規制に際して動物を導入することの影響を評価した研究報告。数理モデルを用いた解析の結果、動物を導入したことに起因するbTBの更なる発生はごくわずかであると示唆された。また、再検査の後に動物を導入した場合、bTB発生のリスクに変化は生じないが、再検査の前に動物を導入した場合、bTBの発生リスクは1.5倍に上昇することが示唆された。 |
| 55 | 細菌性食中毒 | 国立感染症研究所 病原微生物検出情報月報 Vol.35 NO.1(No.407) 2014年1月発行 | 日本における腸炎エルシニアの報告。2013年4月、経口感染(ブタ肉を扱った器具を介して調理した野菜サラダ)により52名が腸炎エルシニアに感染した。 |
| 56 | カンピロバクター感染 | Gut Pathog. 2014 Apr 16 | アイルランドにおけるCampylobacter ureolyticus (C.ureolyticus)に関する報告。2012年11月~2013年3月にアイルランドにおいて、イヌ44匹、ネコ31匹、ブタ89頭の糞便検体を検査した結果、イヌの9%、ネコの32%、ブタの18%からC.ureolyticusが検出された。さらにネコ糞便由来のC.ureolyticus分離株は胃腸炎患者由来のC.ureolyticus分離株と遺伝学的に一致した。本報告により、アイルランドの家畜からC.ureolyticusが初めて同定分離され、それが胃腸炎患者に感染していたC.ureolyticusと一致したことが示された。 |
| 57 | アシネトバクター感染 | INFECTION AND IMMUNITY. 82(2014)3417- 3425 | Acinetobacter baumannii (A.baumannii)と緑膿菌は感染部位が重複する院内病原菌である。緑膿菌によって生成されるピオシアニンがA.baumannii感染細胞による活性酸素種産生を促し、それに応じてカタラーゼやスーパーオキシドジスムターゼの有意な増加を示すことが明らかとなった。ピオシアニンがA.baumanniiの酸化ストレスに対する防御メカニズムを誘発し、A.baumanniiと緑膿菌に同時感染している場合においては、抗生物質への耐性が増加することが示唆された。 |
| 58 | パストツレラ感染 | The Pig Site (May. 19, 2014) | 英国におけるブタのパストツレラ感染の報告。英国のBury st edmundsにおいて、屋内で飼育されたブタの呼吸器疾患を調査するためにサンプリングされた2つ臓器検体から、パストツレラ感染が確認された。 |
| 59 | 丹毒 | The Pig Site (May. 19, 2014) | 英国におけるブタの丹毒の報告。英国において、呼吸器疾患のため安楽死したブタを検査したところ、重篤な感染心内膜炎を発症しており、左房室弁から豚丹毒菌(Erysipelothrix rhusiopathiae)が検出された。 |
| 60 | ジフテリア | Zoonoses and Public Health. 60(2013)539-542 | ドイツにおけるジフテリアの報告。2010年ドイツにおいて、ブタからヒトへの感染と考えられる2例の皮膚ジフテリア患者が報告された。 |